

みなさん、ご苦勞様です。6月も終わり成績提出の時期も近づいてきましたね。ここを乗り越れば、キラキラに光る夏休みが待っています。もう少しもう少し、踏ん張っていきましょう！！

さて、教頭先生のご提案で6月は【ビジョン達成行動週間】として自分たちの指導を見直してきました。私は、このように自分たちがビジョンに戻る機会を設定していただくことで、指導をしていく中で大切にしていけないといけない事を再度確認することができたと感じております。

そんな中、先週のテーマは「めあてとふりかえり」でした。みなさんは毎時間めあてを提示することはできたでしょうか。また、みなさん「めあて」として子どもたちに何を提示していますか？つけたい力？課題？ゴールイメージ？そこがいま河原田小学校として少し混在しているように感じます。そこで、子どもたちに何を提示していけばよいのか少し整理していきたいと思ひます。

そもそも、「めあて」という言葉を四日市市教育委員会では授業づくりガイドブック2で『「ねらい」を達成するために、子どもの視点に立った目標のこと』と説明しています。また「ねらい」については、『教師がこの1時間（学習活動）で子どもにつけたい力のこと』と定義しています。つまり、『子どもに教師が1時間で子どもにつけたい力をつけさせるために、子どもの視点にたつた目標を提示しよう』ということになります。

例えば、前転の授業で考えてみるとつけたい力に順次接触を設定した場合、授業の最初に「肩、背中、腰、お尻の順にマットに着こう」と子どもに投げかけることになります。また前田先生がおこなった算数の授業では、

子どもたちに「小数の倍の意味を理解しよう」や「数直線を書けるようになろう」といっためあてを提示することになります。そうすると、これは順次接触できない子に対して、できるようになろうと言ったり、数直線が書けない子に対して、書けるようになろうと言ったりしていることになりますよね。これは岡野先生のお話にあった「子どもの行動を変えようとしていること」に当てはまると考えられます。

(図1)

「子どもを変える(行動・頭の中)」から
「子どもを取り巻く環境を変える(ことにより子どもの変容を促す)」
=場、課題、モデル、資料、図

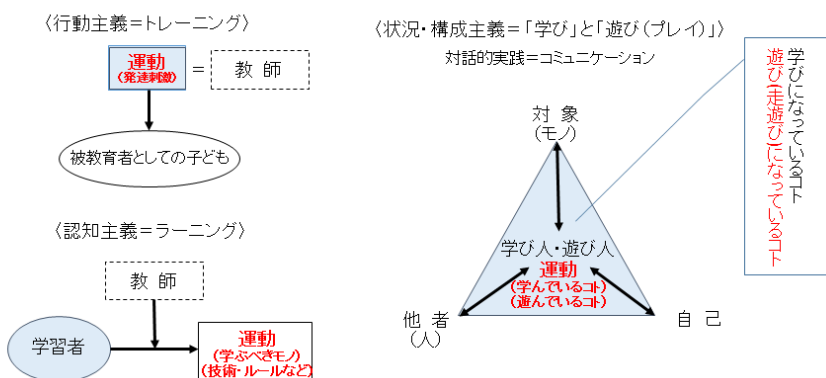


図1 岡野先生のスライドより

しかし、本校が研修の核として据えているのは前者ではなく「子どもを取り巻く環境を変える」ということです。教材のおもしろさに触れた課題づくり、子どもたちが取り組むことで自然とつけたい力がつくような課題づくりを授業づくりの中心に据えて研修をおこなってきました。教科の本質に触れた課題に子どもたちを向き

合わせる（そのような環境で子どもを取り囲む）ことで、子どもたちの3つの対話を成り立たせ、学びを成立させていきます。だからこそ、授業の開始5分以内に課題を提示して、子どもたちの学びが成立する環境をこちらが整える必要があります。

しかし、そうすると「四日市市教育委員会が言っていることがおかしいと否定するのか甫本！お前も随分とえらくなつたな。」とツッコミがきそうですが…授業づくりガイドブック2にはこうも書いてあります。

学習指導上、一般的には、「課題」は教師から与えるもの、「問題」は子どもが自ら探し出すものを言います。

- ・ 「めあて」は必ずしも授業の冒頭に提示しなければいけないものではありません。子どもに問題意識を持たせた後に、子ども自身から「めあて」となる言葉を引き出せば、子どもの問題意識が明確になり、子ども自身のめあてとなります。

教師が与えるものは課題と明記されています。また、めあてはこちらが提示しなくてもよい。子どもから問題意識として出てこればそれがよいと書かれています。

つまり、本校の研修に照らし合わせたときの課題から出てくる子どもたちからの困り感（問い）のことを、四日市市教育委員会では「めあて」とよんでいると考えていいのではないのでしょうか。だからこそ、教師はその教材のおもしろさに触れた困り感がでてくるような課題（環境）を考え提示していく必要があると考えます。じゃあ「そもそも「めあて」という言葉がややこしいじゃないか」というご意見もあると思いますが、それは大人の事情でなかなか「めあて」という言葉を否定したり、消したりすることは出来ないそうです。だからこそ、河原田では、めあてと聴けば課題のことだと考えていただき、「めあて＝課題」と繋げていただければと思います。

全員の子どもの学びを保障するために、どのような課題がおもしろさに触れた課題なのか職員室で話したり、空きの時間や授業後にふらっと隣の教室の課題を覗きに行ったりしてみましょう。見に行ったり、話したりすることで、自分たちの授業力の向上に繋がっていきます。

今私が、この研修だよりをつくっているこの時間はW杯予選リーグの最終戦です。ただいま後半戦が始まりました。私たち「チーム河原田」も日本代表に負けない同僚性で頑張っていきましょう。あっ、でもくれぐれもみなさん無理のない程度にいきましょうね。健康が一番ですからね。（と言いながら明日？今日？から東京に行くのにこんな時間まで起きていて、朝寝坊したら〇熊先生に怒られるのでそろそろ明日に備えます…あっ東京行く準備してない。急いでしないと！では最後までよんでいただきありがとうございます。ぜひ、感想聞かせてくださいね。）

（文責 甫本）

それぞれ、何個の玉か数えられるように、気配を消せるように、させたわけではないですよ！この課題を提示することで学びを成立させる環境をつくられていると考えながら見させて頂きました。

